2012 年度報告書（研究員）

氏　名	田恩伊
職　位	短期間研究員

研究概要

「地域づくり」と「つくられる共同体」: 日韓の新たな政策的取り組み

最近、コーハウジングやコレクティブ・ハウス，エコ・ビレッジ，共同生活ハウスなどを含む一連の共同体的集合形態がマスコミやメディアからしばしば取り上げられるようになった。興味深いことは、東北大震災と福島原発事故の後、共同体的結束の生活形態が現地及び避難生活の場でも生まれてきており、共同体をめぐる一連の動きが原発問題と同時に注目されている現象である。不安定な社会においてはさまざまな形の一時的親密領域や公共領域が生まれ、また消えていく傾向がある。しかし、福島原発事故をめぐって展開されている社会的諸現象と問題認識－公共性、親密性、専門家集団、リスク問題など－は「不安定」という前提付け以上のレベルで捉え直す必要性を求められており、従って、親密圏の領域と言われてきた共同体的結束現象もまた注意深く見届ける必要があるものだと考えられている。一方、韓国のソウル市では、2012 年に「つくられる共同体」の共同体的結束モデルを取り入れ、地域・ムラづくりのプロジェクトを新しい政策として打ち出された。すでにフィールド調査を行ってきた韓国の共同体グループも政策のモデルとして入っており、こういった動きを今年の研究テーマとして設定し、その政策と実践の現場に対してインタビューとフィールド調査を行った。現在、韓国では、「つくられる共同体」をめぐる行政側との協力を試みる様々な市民グループの動きが出てきており、今後「親密圏」とかかわる公共圏・公共性をめぐる新たな展開が予測されている。これらは共同体が持っている規範的要素や独特な文化を地域分権主義から捉え，それを社会政策的に有効に活かそうとする視点が反映されているものだと考えられる。 ところが，「開かれ」と「現れ」の理念に基づいた公共圏・公共性の機能的・道具的な要素が重視されてきた政策的公共性は、果たして一部「閉じ」の世界である共同体に適用しうるものであるだろうか、あるいは、このような政策的接近は、コミュニティにおける親密圏と公共圏の交差する緊張関係にどのように影響していくだろうか、という問いが提議される。

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

論文提出：１.「つくられる共同体の社会学的地平－日韓の事例から」、京都大学 GCOE 論文集シリーズ『モダニティの変容と公共圏』。

報告：

１．親密圏と公共圏の交差する「つくられる共同体」－日韓の事例から－
（京都大学 GCOE 国際共同研究、コア成果公開研究会）

２．「つくられる共同体」の社会学的地平－親密圏と公共圏の交差　（日本社会学史学会）

３．「花より男子」韓国版ドラマの親密性・親密圏－親密圏をめぐる韓国社会の変容と研究紹介－（京都大学 GCOE 国際共同研究プロジェクト「ブィジュアル・カルチャーの中の親密圏」）